

○卒業時に修得しておくべき臨床能力（コンピテンス，コンピテンシー）

本学医学部では，次のとおり学生が卒業時に修得すべき主要な能力を5つのコンピテンスとして設定し，各コンピテンスにはそれぞれ具体的な到達目標がコンピテンシー（観察可能な能力）として47項目を設定しています。

I プロフェッショナリズム

<医師としての価値観・態度・姿勢>

- 1 高潔，誠実，正直，共感の態度を保ち，それらを示すことができる（人間性）。
- 2 他者の多様な価値観を尊重できる（価値観の尊重）。
- 3 自分の利益よりも患者・家族・住民・社会の利益を優先的に考え，その利益を達成するために可能な限り努力できる（利他主義）。
- 4 倫理原則，法律に基づいて行動できる（倫理的・法的理解）。
- 5 患者と家族の心理・社会的背景を理解し，全人的に対応できる（全人的対応）。
- 6 自分の行為と決断を振り返り，次の行為と決断に活かすことができる（省察的实践）。

<生涯学習・自己啓発・自己管理>

- 7 自己の目標を設定し，目標達成のための方法を見だし，それを実行できる。
- 8 適切に自己評価をし，能力の向上のために，自己学習を自律的に継続できる。
- 9 自らの知識や技能を多職種で共有し，それを後進に伝え，後進を育成できる。
- 10 精神面，身体面で自己管理に努めることができる。

<チーム医療・医療安全>

- 11 医療チームの一員として協働し，効果的な役割を果たすことができる。
- 12 他の職種の考えや役割を理解，尊重し，多職種協働を実践できる。
- 13 患者，家族，住民を医療チームの一員として考え，協働できる。
- 14 安全な医療を提供するための基本原則を理解し，実践できる。
- 15 常に医療の質を改善することを考え，質改善を実践できる。

II コミュニケーション

- 1 患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会と良好な関係を構築できる。
- 2 患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会の心理・生活・文化的背景を適切に把握するための，支持的・共感的なコミュニケーションをとることができる。
- 3 効果的な協働のために，相手に応じて適切な方法で情報の収集・集約・伝達を行うことができる。
- 4 患者，家族と情報に基づいた意思決定の共有（インフォームド・シェアード・ディシジョン・メイキング）ができる。
- 5 個人とだけでなく，集団，社会との適切なコミュニケーションをとることができる。
- 6 様々なICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し，活用できる。

III 医学知識と科学的探究心

- 1 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
- 2 生体の正常な構造や機能，および発生，発達，加齢，死を生命科学的知識により説明できる。
- 3 疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。
- 4 疾患の病態と症候を説明でき，その鑑別と診断を計画できる。
- 5 疾患の適切な治療，最新の治療を理解し説明できる。
- 6 人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し，健康増進の方法を説明できる。
- 7 疾病・障害・健康問題と社会との関係を説明できる。
- 8 医学・医療と社会との関連，社会の医療問題を説明できる。
- 9 新しい医学・医療情報を探索し，医学・医療における疑問点を見出し解決しようと努力できる。
- 10 医学，医療における客観的根拠を適切に探索し，EBMを実践できる。

IV 診療技能

- 1 心理・社会的状況を含め患者の病歴を正確に聴取できる。
- 2 身体診察と基本的臨床手技を適切に実施できる。
- 3 診療録を SOAP 形式で，客観的，かつ簡潔に記載し，プロブレムリスト，鑑別診断を作成できる。
- 4 適切な検査を選択し，結果を正しく解釈できる。
- 5 時，相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。
- 6 患者と家族に対し，エビデンスに基づいて，適切に治療法・予後を説明できる。
- 7 感染管理を考慮した診療ができる。
- 8 プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。
- 9 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション，介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。

V 地域社会へ貢献

- 1 地域社会における疾病予防，健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。
- 2 地域の医療状況，社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる。
- 3 医療計画，地域医療構想について説明できる。
- 4 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。
- 5 社会保障制度を理解し，地域包括ケアの実践に参加できる。
- 6 災害における被災者や，社会的弱者の現状について理解し，医療に関わるボランティア活動に参加できる。
- 7 国際社会の健康問題を把握，説明することができ，可能な範囲でその問題に対処できる。